研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-750		18-029	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Lifetime risk of atrial fibrillation according to optimal, borderline, or elevated levels of risk factors: cohort study based on longitudinal data from the Framingham Heart Study.

至適、境界域、高レベルの危険因子における心房細動の生涯リスク-長期追跡コホートフラミンガム研究

執筆者

Staerk L, Wang B, Preis SR, Larson MG, Lubitz SA, Ellinor PT, McManus DD, Ko D, Weng LC, Lunetta KL, Frost L, Benjamin EJ, Trinquart L.

掲載誌

BMJ. 2018 Apr 26;361:k1453. doi: 10.1136/bmj.k1453.

キーワード	PMID
心房細動、危険因子、フラミンガム心臓研究	29699974

要　旨

目的：
至適、境界域、高レベルと分類されている危険因子と心房細動の生涯リスクとの関連を調べることを目的とした。

方法：
地域の一般集団を対象とした長期追跡研究であるフラミンガム心臓研究を用いた。対象者は、55 歳、65 歳、75 歳時点で心房細動の既往のない者とし、喫煙、飲酒、BMI、血圧、糖尿病、心不全または心筋梗塞の既往を指標として、すべての危険因子が至適にあるものを至適群、危険因子が境界域にあたり、高レベルには当てはまらないものを境界群、少なくとも一つは高レベルの危険因子が当てはまるものをハイリスク群と各年齢時点で分類した。95 歳までの生涯リスクを算出した。

結果：
55 歳時点で、5,338 人の対象者がおり、247 人が至適群、1,415 人が境界群、3,676 人がハイリスク群であった。高レベル危険因子の割合は年齢があがるとともに徐々に増えた。55 歳時点では、心房細動の生涯リスクは 37%（95%新楽間 34.3%-39.6%）であった。至適群、境界群、ハイリスク群の生涯リスク（95%信頼区間)は、それぞれ 23.4%(12.8%-34.5%)、33.4% (27.9%-38.9%)、38.4% (35.5-41.4%)であった。1 つ以上高レベルの危険因子を持つ対象者の心房細動生涯リスクは 37.8%以上であった。危険因子レベルによる生涯リスクは 65 歳時点、75 歳時点の対象者で見ても同様であった。

結論：
55 歳、65 歳、75 歳のどの時点においても、危険因子が至適レベル者の心房細動生涯リスクはおよそ 5 人に 1 人であった。1 つ以上の高レベルの危険因子があると、生涯リスクは 3 人に 1 人に上昇した。